

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (保育所) (1 単位)	3. 科目番号	JNPR2411
2. 授業担当教員	山口 恵美子		
4. 授業形態	演習、ディスカッション、グループ学習、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。かつ、実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図るとともに、実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できるようになる。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明ができることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメント (宿題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習部分に示した事柄に取り組んだ上で授業に臨むこと。 ・実践に役立つ教材製作の課題を提示する。(授業中に指示する) <p>レポート課題設題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習 I に向けての課題とそれに対する今後の取り組み」について 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『保育実習の手引き』 小櫃智子他『幼稚園・保育所 パーフェクトガイド』わかば社、2017 年</p> <p>【参考書】厚生労働省編『保育所保育指針解説書』</p> <p>※その他、必要に応じてプリント教材を配布する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できるようになったか。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養えたか。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明ができることができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業態度 (個別学習・グループ学習における意欲的な取り組み) (60%)、課題レポート (20%)、提出物とその内容 (20%) の配分で総合的に評価する。</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。さらに実習終了後は、実習での学びを活かして今後履修する科目の学習の糧にして欲しいと願います。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとってひとりの大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもって向上していけるよう頑張ってください。日々の弛まぬ努力を期待しています。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業概要の説明・支援室より配属先発表、調書配布。 保育実習ガイダンス (保育実習の開始にあたり、保育実習 I・II・III それぞれの実習目標と内容、実習の流れを理解する。保育実習における基礎知識を学習する。)	事前学習	『保育実習の手引き』『本学の保育実習の概要』(pp. 1-7) を読み、授業に備える。
		事後学習	保育実習 I (保育所) の実習目標と内容を復習し、ワークシートにまとめる。 『保育実習の手引き』『実習に関する基本的ルール』(pp. 9-11) を読み、理解する。調書の下書きを作成する。
第 2 回	実習に臨む心構えについて (保育実習におけるマナーと勤務の留意点を確認し、実習に臨むうえでの自らの課題を明確にする。)	事前学習	『保育実習の手引き』『保育実習の留意事項』(pp. 20-23) を読み、理解する。
		事後学習	保育実習における自己課題を明確にするとともに、今後の具体的な取り組み内容と計画をワークシートにまとめる。
第 3 回	画像を見て保育園見学 保育園の一日の流れと環境、保育士の仕事、援助等を学習する	事前学習	保育園について調べておく
		事後学習	要点を整理し、実習生としてのあるべき姿必要な準備を理解する。
第 4 回	保育実習における記録の意義について 実習記録の望ましい記述方法①子どもの活動場面から	事前学習	『保育実習の手引き』『実習記録について』(pp. 26-28) を読み、理解する。
		事後学習	子どもの活動場面を捉える視点を再確認し、『保育所保育指針』『第 2 章 子どもの発達』を熟読する。
第 5 回	実習記録の望ましい記述方法②クラスの 1 日から	事前学習	『保育所保育指針』『第 3 章 保育の内容』を読み、理解する。
		事後学習	規定の書式にまとめて保育所生活の一日の流れを把握するとともに、実習記録を記述する練習を行う。
第 6 回	保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、自らの実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』の「実習生オリエンテーションについて」(pp. 12-15) を読み、理解する。実習オリエンテーションに必要なものを準備する。
		事後学習	自身の実習目標を明確にし、ワークシートにまとめる。
第 7 回	乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。	事前学習	保育内容総論等の教科書で年齢別に集団保育をする際の留意点について調べる。
		事後学習	年齢・発達過程に応じた援助の考え方についてワークシートにまとめる。

第8回	部分実習について理解し、手遊び、読み聞かせを実践し、必要な技術について理解する。	事前学習	手遊びの下調べと絵本・紙芝居、弾き歌いの準備をして授業に持参する。
		事後学習	課題とする指導案を立案し、グループで模擬保育に備えて検討する。
第9回	保育演習①手遊び、読み聞かせを実践し省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けて準備を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第10回	保育演習②手遊び、読み聞かせを実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けて準備を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第11回	保育演習③手遊び、読み聞かせを実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けて準備を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第12回	リトミックのDVDを見て、1つの曲で様々な楽しみ方ができることを理解する。	事前学習	リトミックについて調べておく。
		事後学習	リトミック視聴をふまえて、スキップや動作、言葉のかけかたを確認しておく
第13回	作製したものをグループで確認し互いに練習する中で望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	自己課題の準備をして授業に持参する。
		事後学習	グループでの自己課題の練習をふまえて発表に備えて検討する。
第14回	保育演習⑤作製したものを発表し模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	自己課題発表の練習をしておく。
		事後学習	互いに発表した内容から、自身の学びにつながることをまとめる。
第15回	実習に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	『保育実習の手引き』『実習における留意事項』を再度確認しておく。
		事後学習	お礼状の練習、持参する持ち物や必要書類を準備する。